

「PassLogic for Windows Desktop」の適用事例第一号！

某市教育委員会のWindows端末へのログインにPassLogic認証を導入

2017年9月に、某市の教育委員会の主導で、傘下にある公立小中学校に「PassLogic」をご導入いただきました。

その導入を株式会社内田洋行様が支援し、管理運用も同社様が行っています。

内田洋行様にご協力いただき、PassLogic導入の内容と過程、その後の状況について事例としてご紹介させていただきます。

当事例は、2017年5月の「PassLogic Ver.3.0.0」アップデートにて実装された機能「PassLogic for Windows Desktop」の適用事例第一号です。

PassLogic for Windows Desktopは、トークンレス・ワンタイムパスワード認証をWindows PCの起動時に適用する機能で、当事例においては生徒の成績や個人情報などの情報を扱う校務系業務用 PC に適用し、セキュリティを強化しています。



導入支援・管理運用担当

株式会社内田洋行

URL : <https://www.uchida.co.jp/>

導入の背景・課題

- 文科省が発表した「教育情報セキュリティのための緊急提言」を受け、校務系業務用 PC のセキュリティ強化を図る。
- 端末のリプレイスは行わない。機器の追加購入も避けたい。
→ 新規ユーザー登録や転属時の手間を減らしたい。
- 短期間で導入したい。

導入後の改善効果

- 校務系業務用 PC の認証セキュリティを強化
- 導入・運用コストの抑制
- 繁忙期前に導入を完了



Windows OSへのログイン認証をActive Directory のパスワードとトークンレス・ワンタイムパスワードの二段階認証に

某市教育委員会では、2016年7月に文部科学省より発表された「教育情報セキュリティのための緊急提言」を受け、教員や事務員が使用する校務系業務用 PC のセキュリティ強化を計画。以前の PC への認証は Active Directory の ID&パスワード認証のみで行っていましたが、これに別の認証方式を追加することで認証強化を図りました。

認証方式の検討過程において、「指紋」「顔」といった生体認証や、ハードウェアトークン、IC カードなどによる認証方式が候補になる中、「端末のリプレイスが不要」「運用コストが低い」「短期間で導入が可能」といった条件に合致する製品として、PassLogic が選ばれました。

PassLogic for Windows Desktop を Windows 7 対応にアップデート

しかし、各学校の端末の OS は、まだ Windows 7 が主流で、当初の PassLogic for Windows Desktop は Windows 7 には対応していませんでした。(Windows 8.1 と Windows 10 へのみ対応)

そこでパスロジは急遽、Windows 7 への対応を決定し、開発に着手。約 1ヶ月半の開発&テスト期間を経て、PassLogic for Windows Desktop を Windows 7 に対応させたバージョン開発し、当案件にて先行導入いたしました。

その後、当バージョンは 2017 年 12 月に「PassLogic Ver.3.1.0」として正式リリースしております。

PassLogic 採用の理由

Windows PC への認証に PassLogic を適用した当事例において、採用の理由は以下になります。

- ① 端末のリプレイスや追加の機器の調達が必要
生体認証の場合、生体情報を読み取るリーダーを内蔵した PC を新規調達するか、外付けのリーダー

を人数分用意する必要があります。

ハードウェアトークンなどの所有物認証では、認証用機器を別途調達しなければなりません。

IC カード認証の場合は、教員に IC カードを持つ慣習がなかったため、新規に用意したうえで、リーダーも用意する必要がありました。

その点、PassLogic for Windows Desktop では、リーダーや専用認証用機器は必要なく、PC にアプリをインストールするだけなので、新規で機材を用意する必要はありません。

② 運用管理のコストパフォーマンスが良い

学校では 1 年ごとに赴任先が変わることがあります。転属が発生する 3～4 月の時期に、本人同席のうえ、生体情報の登録作業を行うのは大きな負担です。

ハードウェアトークンなどの機器を用いる場合、紛失や故障、電池切れといった状況に対して予備を用意し、新規設定した実物を届けなければならないという運用コストが伴います。

PassLogic for Windows Desktop であれば、同じ

Active Directory に参加していれば、別の PassLogic for Windows Desktop インストール済み PC にログインする際であっても、ユーザー情報変更なしで、これまで使用していたのと同じ Active Directory パスワードとパターンを使用してログインすることができます。新規ユーザー登録をする場合も、ユーザー名、Active Directory パスワード、初期設定パターンをメールやプリントアウトなどで知らせるだけで済みます。

⑨「瞬快」との併用が可能

「瞬快」とは、再起動時に端末の環境を復元する富士通株式会社製のソフトウェアです。端末が、端末利用者の操作によって、不適切なソフトやファイル、マルウェアなどで汚染されてしまうのを防ぎます。ただし、端末上に残されたファイルを再起動のたびに消去してしまいます。(作成したファイルは再起動やシャットダウンの前にファイルサーバーに保存する必要があります)

PassLogic for Windows Desktop は、オンラインで利用している限りは端末上のファイルを利用せずに動作します。当案件での運用方法は、オンラインでの運用に限られているので、問題なく併用が可能でした。

ほかにも決め手となったポイントとして、導入時と運用開始後におけるパスロジのサポートには定評があると伺いました。

運用開始時と、その後の状況

PassLogic のトークンレス・ワンタイムパスワード認証は「パターンの記憶」を利用した認証方式で、一般的によく知られている認証方式とは異なるため、利用者の方に説明が必要です。

運用支援を担当とする内田洋行様は、PassLogic 運用開始時に各学校において教員の方たちを集めて説明会を開催。PassLogic でのログイン方法をレクチャーしました。

結果、教員の方にログイン方法をご理解いただき、現在に至るまで大きな問題もなく運用は続けられています。

なお、端末への認証後、内田洋行様が提供するグループウェアや、市内で共有利用しているファイルサーバーに接続し、校務に利用しています。

これらのサーバーは市が管理するデータセンターにあり、各学校のネットワークとは閉域網で接続されています。

PassLogic for Windows Desktop は認証後の作業にはまったく影響を及ぼさないため、その点においても問題は発生しておりません。

個人情報をはじめとした機微情報を取り扱う端末には、従来のパスワード認証だけではなく、認証を強化する施策が求められています。

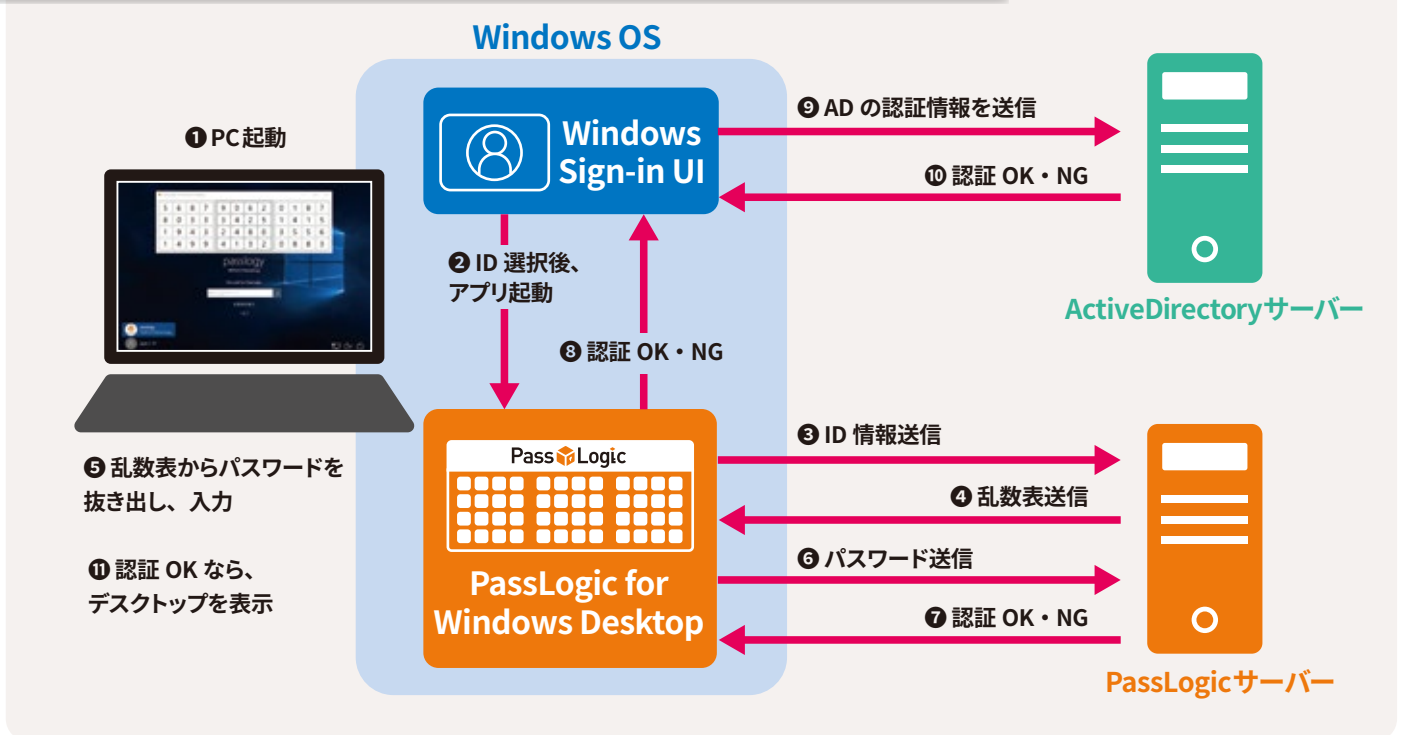
PassLogic は、当案件のような端末起動時の認証だけでなく、ネットワーク機器やアプリケーションへの認証にも利用いただける、高パフォーマンスの認証システムです。

具体的な製品内容につきましては、PassLogic 製品カタログや、ウェブサイトをご参照ください。

PassLogic for Windows Desktop 導入後のサインイン画面



PassLogic for Windows Desktop 利用イメージ図 (オンライン時)



パスロジ株式会社
www.passlogy.com

パスロジック事業部
03-5283-2263
受付時間 10:00~17:00 [土・日・祝休]
E-MAIL : sales@passlogy.com

セキュリティ情報サイト
せぐなべ 検索
www.segunabe.com

お問い合わせ先

※記載されている、会社名、製品名、ロゴ等は、各社の登録商標または商標です。